

こそあど言葉

I

こ＝自分に（ **近い** ）ものを指す

そ＝話し相手に（ **近い** ）ものを指す、今話に出てきたことを指す

あ＝自分からも話し相手からも（ **遠い** ）ものを指す

ど＝内容が（ **分からない** ）ものを指す、全てを指す

II

・幼い息子（むすこ）が「（ **これ** ）読んで」と、棚（たな）から本を持ってきた。
話しているのは息子で、本は息子に近いものなので「これ」。

・100メートル先に道路が見えますね。（ **あれ** ）が駅へ行く道です。
話している人にとっても、話し相手にとっても遠いので「あれ」。

・友達と話しこんでいると、（ **そこ** ）に電話がかかってきた。
「友達と話している」というもう分かっている内容を指すので「そこ」。上記の「今話しに出てきたこと」に当たります。

・「日曜は（ **どこ** ）に遊びに行きたい？」「（ **どこ** ）にも行きたくない」
1つ目の「どこ」は分からない内容を指し、2つ目は「どこ」はすべてを指しています。英語のanyに近いイメージでしょうか。

・こちら（さむ）も寒くなってきたので、（ **そちら** ）はもう雪が降（ふ）っていること
でしょうね。

これが手紙だと察することは小学3年生には難しいかもしれません。手紙を送る側からは遠く、話し相手には近い場所を指すので「そちら」。

・あなたは（ **どちら、どこ** ）にお勤（つと）めですか？
職業を尋ねる表現だと分かるでしょうか。

・「怒（おこ）ってるの？」「（ **そんな** ）ことはない」
「怒っている」という「今話に出てきたこと」を受けているので「そんな」。

・惜（お）しい人をなくした。（ **あんな、あれほど** ）すごい人物はもう現（あらわ）
れないだろう。

亡くなった人は自分からも話し相手からも遠いものになっている。実際の距離が遠いのではなく、時間的に、意識的に遠い。

・今日は大晦日（おおみそか）だ。（ **この** ）一年で成長できたかな。
今日までの1年間というのは、自分にとって近いものと考えられるので「この」。

- ・「お兄ちゃん、（ その、あの ）醤油（しょうゆ）取って」

基本的には「その」。自分からは遠く、お兄ちゃんには近いから頼んでいるので。高いところなどにあつて、自分からもお兄ちゃんからも遠ければ、「あの」もありうる。

- ・たくさんありすぎて、（ どれ ）が良いか分からない。

どれを選んでいいか分からないので「どれ」。

- ・おもちゃを（ どの、どれ ）くらい持っているか見せてください。

どのくらいか、量が分からないので「どの、どれ」。ちなみに「どのくらい」でも「どれくらい」でも「どのぐらい」でも「どれぐらい」でも可。

- ・道に迷ってしまった。（ ここ ）はどこだろう。

今自分のいる場所を指しているので「ここ」。

- ・（ あちら ）に見えます高い塔（とう）がスカイツリーです。

バスツアーでバスガイドさんが説明してくれているような雰囲気を感じ取れるかどうかポイント。バスから見ているならば、話し手（ガイド）からも、聞き手からも遠いですね。

- ・（ どんな ）につらい事でもやり抜（ぬ）いてみせる。

「全てを指している」ので「どんな」。

- ・一年前のあの日も（ こんな ）天気だった。

一年前の天気と今現在の天気と比べている。今現在の天気は話し手にとって近いものなので「こんな」。

- ・鬼さん（ こちら ）、手の鳴（な）る方へ。

決まり文句。遊びの文句。鬼を自分の方へ呼んでいるので、「こちら」。

- ・向こうに木陰（こかげ）がある。ここよりも（ あちら ）の方が涼（すず）しそう
だ。

ここで木陰は、自分からも話し相手からも遠くにあるので「あちら」。

- ・幼稚園のころは楽しかった。（ あの ）ころは良かったなあ。

昔のことは「自分から遠いこと」と考えるので「あの」。実際こんな年寄り臭いことを言う小学生がけっこういます（笑）

- ・「（ どう ）して勉強しなくちゃいけないの？」 「（ それ ）はね、立派（りっぱ）な大人になるためだよ」

分からないことは「ど〜」。一度話に出てきたことは「そ〜」。